

第5章 総合的な評価

前章において、本事業の実施により影響を及ぼすおそれのある生活環境影響調査項目（大気質、騒音、振動、悪臭、地下水）について現況調査、予測及び影響の分析を行った。

その結果、各項目とも事業の実施による影響の回避又は低減に係る対策は適切であり、かつ施設の稼働後も生活環境の保全目標を達成すると評価された。

以上から、総合評価として、本事業が周辺的生活環境に及ぼす影響はほとんどないと評価した。

なお、本事業の実施に当たって、予測されない影響が生じた場合及びその恐れが予想された場合は速やかに対策を講じ、周辺環境に影響が生じることがないように配慮する。

表 5-1 総合評価 (1)

大気質	調査の結果	令和2年～令和4年にかけて実施した四季調査の結果、環境基準が設定されている項目については全て環境基準を下回った。
	予測の結果	1) 埋立作業による紛じん 建設機械の稼働に伴う季節別降下ばいじん量は、最大季節時で0.21t/km ² /月となった。 ----- 2) 廃棄物運搬車両の走行による排出ガス 廃棄物運搬車両から排出される排出ガス（年平均値）は、二酸化窒素：0.00353～0.00359ppm、浮遊粒子状物質：0.008059～0.008065mg/m ³ となった。1時間値の1日平均値は、二酸化窒素：0.0131ppm、浮遊粒子状物質：0.0244mg/m ³ となった。
	生活環境の保全上の目標	1) 埋立作業による紛じん 「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」において参考値として提案している10t/km ² /月であること。 ----- 2) 廃棄物運搬車両の走行による排出ガス ・二酸化窒素「1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること」 ・浮遊粒子状物質「1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であること」
	影響の程度	本事業計画における大気汚染防止対策は適切であり、また、予測の結果、全ての項目が生活環境の保全上の目標を満足している。よって、本事業の実施により大気質に及ぼす影響はほとんどないものと評価する。
騒音	調査の結果	現地調査の結果は、計画地、大平田集会所、諏訪交流センターで実施した環境騒音は昼間54～57dB、夜間45～46dBであった。道路交通騒音は、中丸団地内で昼間52dB、夜間42dB、山側道路で昼間67dB、夜間57dBであり、全て環境基準を下回った。
	予測の結果	1) 施設（浸出液処理設備）の稼働及び埋め立て作業に伴う騒音レベル 寄与値は、事業地敷地境界で46dBであった。また環境騒音については、最寄集落（大平田集会所）で昼間56dB、夜間45dBとなった。 ----- 2) 廃棄物運搬車両の走行による騒音レベル 廃棄物運搬車両の走行台数を踏まえた新設道路の道路境界上の昼間の騒音レベルは58～59dBとなった。
	生活環境の保全上の目標	1) 施設の稼働による騒音レベル ・敷地境界は、騒音レベル（寄与値）が昼間65dB以下、朝夕60dB以下、夜間50dB以下となること。 ・保全対象は、騒音レベル（環境騒音）が昼間65dB以下、夜間60dB以下となること。 ----- 2) 廃棄物運搬車両の走行による騒音レベル 新設道路の道路境界上の騒音レベルが、環境基準の昼間70dB以下となること。
	影響の程度	本事業計画における騒音対策は適切であり、また予測の結果、生活環境の保全上の目標を満足している。よって、本事業の実施により、周辺環境に及ぼす騒音の影響はほとんどないものと評価する。

表 5-1 総合評価(2)

振動	調査の結果	現地調査の結果は、環境振動については、計画地及び大平田集会所では昼夜ともに 30dB 以下、諏訪交流センターでは昼間 35dB、夜間 30dB 以下であった。道路交通振動は中丸団地内、山側道路では、昼夜ともに 30dB 以下であり、低い振動レベルを示した。
	予測の結果	1) 施設（浸出液処理設備）の稼働及び埋め立て作業に伴う振動レベル 寄与値は、事業地敷地境界で 33dB であった。また環境振動については、最寄集落（大平田集会所）で昼間、夜間ともに 30dB 以下となった。 2) 廃棄物運搬車両の走行による振動レベル 廃棄物運搬車両の走行台数を踏まえた新設道路沿道の昼間の振動レベルは 29dB となった。
	生活環境の保全上の目標	1) 施設の稼働による振動レベル ・敷地境界は、振動レベル（寄与値）が昼間 70dB 以下、夜間 60dB 以下となること。 ・保全対象は、振動レベル（環境振動）が人が振動を感じ始めるとされる感覚閾値 55dB 以下となること。 2) 廃棄物運搬車両の走行による振動レベル 新設道路の道路境界上の振動レベルが、要請限度の昼間 65dB 以下となること。
	影響の程度	本事業計画における振動対策は適切であり、また予測の結果、生活環境の保全上の目標を満足している。よって、本事業の実施により、周辺環境に及ぼす振動の影響はほとんどないものと評価する。
悪臭	調査の結果	令和 3 年 8 月 10 日に実施した事業地内での悪臭調査の結果は、全項目で規制基準を下回った。
	予測の結果	対象廃棄物や埋立て構造も同様のエコフロンティアかさま（現行施設）の供用時の周辺地域で実施した悪臭調査では、ガス抜管から出現する発生ガスの量は僅かであり、各化学物質も定量下限値程度となる。また埋立地から 260m 離れた敷地境界において全項目で規制基準を下回った。 新処分場の埋立地から敷地境界までの距離はエコフロンティアかさまと同程度の 200m、最も近接する集落までの距離は 700m と、エコフロンティアかさまと同等またはそれ以上離れており、かつ基本的な悪臭対策は現行施設に準じるものであることから、周辺への影響は限りなく低いと考えられる。
	生活環境の保全上の目標	悪臭防止法に基づく規制基準を満足すること
	影響の程度	本事業計画における悪臭対策は適切であり、また、予測の結果、施設から漏洩する悪臭の影響は、生活環境の保全上の目標を満足すると想定される。よって、本事業の実施により、周辺環境に及ぼす悪臭の影響はほとんどないものと評価する。
地下水	調査の結果	地下水位の定期的な観測の結果、季節的な変化はほとんどないことが確認できた。地下水は、地形的な勾配に沿って流下しているものと推定される。
	予測の結果	計画する埋立区域及び浸出水処理施設では、地形改変は小規模である。したがって、周辺の将来的な地下水の水位及び流動状況に影響は及ばないものと予測される。
	生活環境の保全上の目標	地下水の水位及び流動状況に影響を及ぼさないこと。
	影響の程度	本事業計画における地下水の予測結果は、生活環境の保全上の目標を満足するものと想定される。よって、本事業により地下水の水位及び流動状況に及ぼす影響はほとんど無いものと評価する。